

全国農耕地土壌 ガイドブック



●全国47都道府県ごとの農耕地土壌の実態についてコンパクトに紹介した初めての出版物

●土壌環境基礎調査・土壌機能モニタリング調査の成果を分りやすく解説

好評
受付中



編集：土壌保全調査事業全国協議会
B5判 132ページ
価格 定価2,860円(消費税込)

目次

- | | | |
|----------------------------|------------------|------------------|
| 1 日本の農耕地土壌の分類 | 18 山梨県の農耕地土壌の実態 | 35 島根県の農耕地土壌の実態 |
| 2 土壌保全調査事業の歩み | 19 長野県の農耕地土壌の実態 | 36 岡山県の農耕地土壌の実態 |
| 3 長期連用試験からわかること
(基準点調査) | 20 静岡県農耕地土壌の実態 | 37 広島県の農耕地土壌の実態 |
| 4 北海道の農耕地土壌の実態 | 21 新潟県の農耕地土壌の実態 | 38 山口県の農耕地土壌の実態 |
| 5 青森県の農耕地土壌の実態 | 22 富山県の農耕地土壌の実態 | 39 徳島県の農耕地土壌の実態 |
| 6 岩手県の農耕地土壌の実態 | 23 石川県の農耕地土壌の実態 | 40 香川県の農耕地土壌の実態 |
| 7 宮城県の農耕地土壌の実態 | 24 福井県の農耕地土壌の実態 | 41 愛媛県の農耕地土壌の実態 |
| 8 秋田県の農耕地土壌の実態 | 25 岐阜県の農耕地土壌の実態 | 42 高知県の農耕地土壌の実態 |
| 9 山形県の農耕地土壌の実態 | 26 愛知県の農耕地土壌の実態 | 43 福岡県の農耕地土壌の実態 |
| 10 福島県の農耕地土壌の実態 | 27 三重県の農耕地土壌の実態 | 44 佐賀県の農耕地土壌の実態 |
| 11 茨城県の農耕地土壌の実態 | 28 滋賀県の農耕地土壌の実態 | 45 長崎県の農耕地土壌の実態 |
| 12 栃木県の農耕地土壌の実態 | 29 京都府の農耕地土壌の実態 | 46 熊本県の農耕地土壌の実態 |
| 13 群馬県の農耕地土壌の実態 | 30 大阪府の農耕地土壌の実態 | 47 大分県の農耕地土壌の実態 |
| 14 埼玉県の農耕地土壌の実態 | 31 兵庫県の農耕地土壌の実態 | 48 宮崎県の農耕地土壌の実態 |
| 15 千葉県の農耕地土壌の実態 | 32 奈良県の農耕地土壌の実態 | 49 鹿児島県の農耕地土壌の実態 |
| 16 東京都の農耕地土壌の実態 | 33 和歌山県の農耕地土壌の実態 | 50 沖縄県の農耕地土壌の実態 |
| 17 神奈川県農耕地土壌の実態 | 34 鳥取県の農耕地土壌の実態 | |

編集代表

齊藤 研二 千葉県農林総合研究センター 塚本 心一郎 茨城県農業総合センター農業研究所

編集委員（五十音順）

内山知二	大阪府環境農林水産総合研究所	齊藤 毅	富山県農林水産総合技術センター 農業研究所
大津善雄	長崎県農林技術開発センター	竹内晴信	（地独）北海道立総合研究機構 中央農業試験場
大塚紀夫	佐賀県農業研究センター	田辺和司	香川県農業試験場
糟谷真宏	愛知県農業総合試験場	中川威佐夫	三重県農業研究所
上山紀代美	神奈川県農業技術センター	橋本 均	（地独）北海道立総合研究機構 中央農業試験場
小池 潤	富山県農林水産総合技術セン ター 農業研究所	坂東 悟	鳥取県農林総合研究所農業試験場
小菅裕明	岩手県農業研究センター	広田年信	徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所
小林卓史	岩手県農業研究センター		

執筆者（執筆順）

小原 洋	（独）農業環境技術研究所	山崎修平・望月久美子	山梨県総合農業技術センター	角 治夫	島根県農業技術センター
齊藤研二	千葉県農林総合研究センター	近藤和子	長野県農業試験場	赤井直彦	岡山県農林水産総合センター 農業研究所
太田 健	（独）農研機構 中央農業総合研究センター	若澤秀幸・高橋和彦	静岡県農林技術研究所	伊藤純樹	広島県立総合技術研究所 農業技術センター
橋本 均	（地独）北海道立総合研究機構 中央農業試験場	本間利光	新潟県農業総合研究所	谷崎 司	山口県農林総合技術センター
清藤文仁	（地独）青森県産業技術センター 農林総合研究所	齊藤 毅	富山県農林水産総合技術センター 農業研究所	和田健太郎	徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所
佐藤 喬	岩手県農業研究センター	宇野史生	石川県農業総合研究センター	田辺和司	香川県農業試験場
鷲尾英樹	宮城県古川農業試験場	坪内 均	福井県農業試験場	大森誉紀	愛媛県農林水産研究所
中川進平	秋田県農林水産技術センター 農業試験場	棚橋寿彦・和田 巽	岐阜県農業技術センター	恒石義一	高知県農業技術センター
矢野真二・熊谷勝巳	山形県農業総合研究センター	瀧 勝俊	愛知県農業総合試験場	藤富慎一	福岡県農業総合試験場
佐藤睦人	福島県農業総合センター	中川威佐夫	三重県農業研究所	山口史子	佐賀県農業試験研究センター
池羽正晴	茨城県農業総合センター 農業研究所	北川照美	滋賀県農業技術振興センター	藤山正史	長崎県農林技術開発センター
吉泉裕基	栃木県農業試験場	浅井信一	京都府農林水産技術センター 農林センター	城 秀信	熊本県農業研究センター生産環境研究所
小柴 守・鹿沼信行・ 染矢和子	群馬県農業技術センター	内山知二	大阪府環境農林水産総合研究所	影井雅夫	大分県農林水産研究指導センター
丸岡久仁雄	埼玉県農林総合研究センター	牧 浩之	兵庫県立農林水産技術総合センター 農業技術センター	上田重英	宮崎県総合農業試験場
岩佐博邦	千葉県農林総合研究センター	西田一平	奈良県農業総合センター	西 裕之	鹿児島県農業開発総合センター
松浦里江	（公財）東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター	橋本真穂	和歌山県農林水産総合技術センター 農業試験場	知念康太	沖縄県農業研究センター
上山紀代美	神奈川県農業技術センター	坂東 悟	鳥取県農林総合研究所農業試験場		

34. 鳥取県の農耕地土壌の実態

1. 気象

年平均気温は 12.9 ～ 15.1℃であり、年降水量は 1,772 ～ 2,155mm の範囲にある。冬季の降水日数が多い日本海側気候であり、県東部ほどその特徴が強い。

2. 地形

鳥取県は中国山地と日本海に挟まれ、東西の距離は約 100km、南北の距離は県中部で約 20km、県東部、西部で約 40km の中央部が南北にくびれた概形を持つ県である。県南部には 1,000 ～ 1,300m の山々が存在し、一部は準平原あるいは準平原化に際してできた残丘的な地形をもつ。また、県西部には中国地方で最高峰の大山（標高 1,729m）があり、南北 33km、東西 41km の黒ボク土で覆われた広い裾野をもっている。平野は三角州と砂丘から形成されている。砂丘あるいは砂浜の南には砂の堆積により海が陸封された、いくつかの大きな湖沼が形成されている。

3. 地質

海岸部は河川、海流および季節風の働きにより砂が堆積した地層が多くみられる。これらは主に完新世に形成された比較的新しい地層である。特に県西部は砂鉄を採取するために行われた後背山地の「カンナ流し」により、近世以降、急速に堆積が進んだと考えられている。この砂の主な供給源は、山地を構成する三郡変成岩と中生代～古第三紀の火山岩類および花崗岩類である。これら地域は砂鉄、クローム鉱、マンガン鉱などの地下資源を胚胎し、過去には採掘が行われた。また、大山周辺には火山砕屑物が形作った、広大で平坦な裾野が広がる。この火山砕屑物のうち、火山灰や軽石などの下降物は県内外に広く分布し、表層は黒ボク土となっている。

4. 土壌の実態

水田土壌は約 24,000ha あり、灰色低地土が 71%、グライ土、多湿黒ボク土がそれぞれ 13% を占める。畑土壌は約 11,000ha あり、黒ボク土が 54%、褐色森林土が 26%、砂丘未熟土が 18% 占める。黒ボク土のうち、表層多腐植質黒ボク土が半分を占める。

大山周辺に広がる 黒ボク土

酸性矯正とリンの補給で生産力の高い土壌となる。主にスイカなど畑作物が栽培されている。

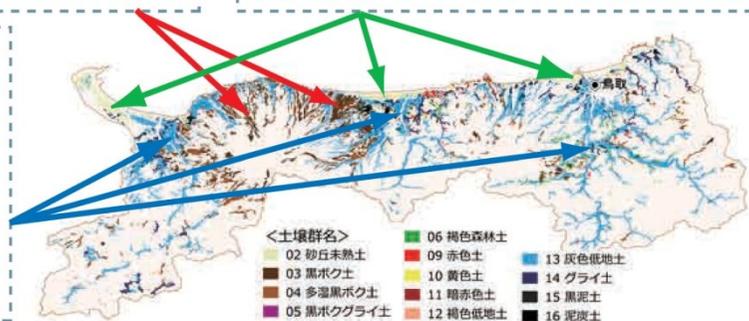


海岸沿いに広がる砂丘未熟土

砂の特性を生かした土ものといわれる白ネギ、ラッキョウ、長イモが栽培されている。



河川沿いに広がる 灰色低地土
主に水稲作が行われている。



本文見本

19. 長野県の農耕地土壌の実態

図1は各作目毎の化学性の変化を示したもので、以下概略を述べる。

(1) 水田土壌

水田では地域により多少の差はあるものの、おおむね土壌診断等を活用して、施肥が行われている。可給態ケイ酸が減少傾向にあったため、地域ぐるみで微量元素を含む総合資材の施用が進められている。

窒素・炭素含有率は一定しているが、塩基類は調査時期により、ふれの大きいものとなっている。可給態リン酸に関しては増加傾向にあり、今後りん酸質資材を控える必要がある。

(2) 畑土壌

1) 野菜畑：高原野菜産地などでは有機物の施用は行われているが、全体的には炭素含有率が年々減少傾向にあり、有機物の施用量が減少していることが示唆される。

また、塩基類は横ばいか減少傾向にあり、特に交換性苦土では3巡目以降、顕著な減少傾向にある。

可給態リン酸は、1巡目以降顕著な増加傾向にあって、6巡目で横ばい状態となっているが、依然として高いレベルにあり、適正施肥が望まれる。



礫質灰色低地土、灰色系
(松本市、水田)



表層腐植質黒ボク土
(松本市、野菜畑)

●読者対象

大学等の教育研究機関、独法および公立試験研究機関
行政および普及関係者
生産団体、農業関係者はもとより、広く各界各層の方々

お申込み方法 ① 下記ご記入の上、FAX送付 FAX番号 03-3219-1646
② 日本土壌協会のホームページ [刊行物案内] からお申込み

全国農耕地土壌ガイドブック

B5判 132ページ

価格 定価2,810円(消費税込)

※別途、送料がかかります(1冊80円、2冊以上はお問合せください)



お申込み冊数

冊

■お名前

■TEL

■ご住所(送付先) 〒

発行：一般財団法人 日本土壌協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-58 パピロスビル6階

TEL 03-3292-7281 FAX 03-3219-1646 <http://www.japan-soil.net/>